はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～　発行：福岡管区気象台

今月の素朴な疑問

「春一番」は春の到来を告げるものですか？

「気象台が春一番を発表した」と聞くと、誰しも春が近づいたという期待感のような気持ちを感じるのではないでしょうか。しかし、本来の春一番は荒々しい強風です。「春一番」は、これまで冬の間は北風が多かったが、急に南風が強まりこれまでとは違う方向から風が吹いてくる、これまでと同じだと思っていたらひどい目に遭うぞ、という漁師たちの生活から生まれた警戒の言葉です。

気象台では、立春（2月４日頃）から春分（３月 21 日頃）の間に、比較的広い範囲で南寄りの風が吹いて気温が上昇した最初の日を「春一番」と呼び、九州北部地方は福岡管区気象台が、九州南部・奄美地方は鹿児島地方気象台が「お知らせ」を発表しています。九州北部地方の春一番の発現日は、ここ数年は２月中旬が多いですが、今年のように発表がない日もあります。

年	発現日
2019年（平成31年）	2月14日
2020年（令和２年）	2月19日
2021年（令和３年）	2月22日
2022年（令和４年）	－

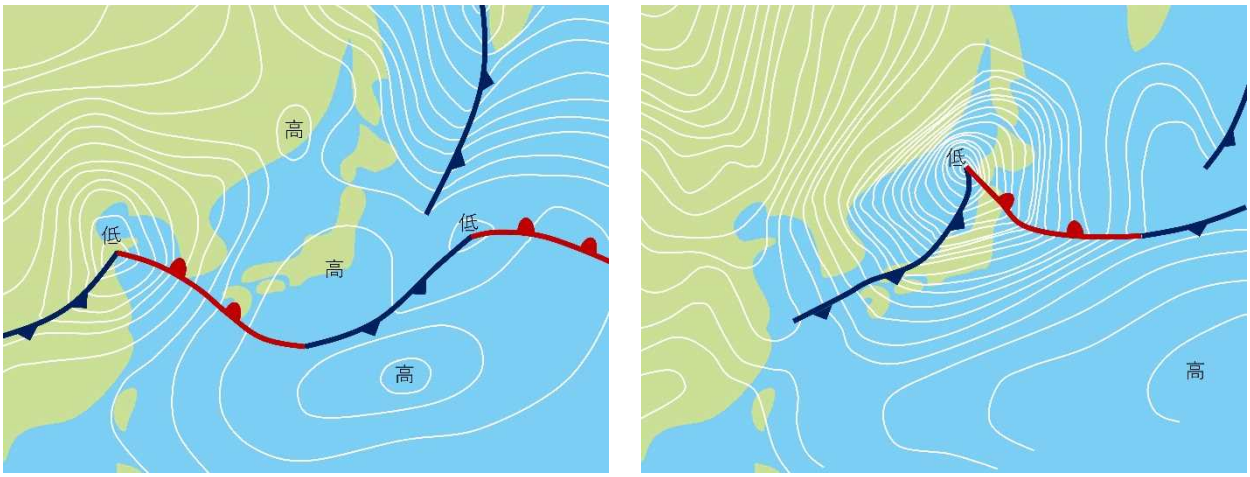
ここ数年の九州北部地方の春一番

実は、春一番の発表は気象台の正式な業務としては規定されておらず、報道機関の要望により発表するようになった、という経緯があります。それでも、気象台から、〇〇地方で「春一番」が吹きました、と発表があると、このニュースを耳にして春が近づいたと感じる人も多いのではないでしょうか。それほど「春一番」は印象に残る言葉だという気がします。ただし、これが春の始まりかというと、そうではありません。気象庁では、統計の上では３月～５月を「春」として天候のまとめなどを発表していますが、立春はまだ寒さも厳しい頃ですし、春一番の吹いた翌日は急に北風に変わって寒くなることが多いからです。

この言葉は、もともと漁業に従事する人たちが、冬から春に移り変わるときに最初に訪れる暴風を警戒して使い出した言葉だそうです。壱岐島には、そのような暴風により大勢の漁師が遭難した教訓を伝える「春一番の塔」が建てられています。

ところで、初めて「春一番」が新聞に登場したのはいつかというと、今から 60 年前の 1962 年（昭和 37 年）の２月 11 日の夕刊でした。図は、この日と前日の午前

9 時の天気図です。前日に黄海付近にあった低気圧は2月 11 日には日本海で猛烈に発達し、日本付近では南風が強まりました。そしてこの日、東京では最高気温が24.5℃まで上がり、福井と島根では、なだれが発生して犠牲者もでています。福岡でも 10 日の夕方から夜にかけて南寄りの風が強まり、最高気温は 19.8℃まで上がりました。



新聞に初めて「春一番」が登場した時の天気図（左：1962 年２月 10 日、右：1962 年２月 11 日）

このように、「春一番」は単に春の到来を告げる言葉ではなく、海で仕事をする人たちから生まれた防災の言葉なのです。春一番のように、日本海で低気圧が発達する場合には、強風による急な昇温、（多雪地ですと）雪融けによるなだれや洪水、陸上では乾燥した強風による火災にも警戒が必要となってきます。ちなみに、火災による火の粉は、強風注意報が出るくらいの風で２キロメートルを超える距離まで飛ぶことがあると言われています。この「春一番」に始まる、嵐をもたらす温帯低気圧は、３月から５月にかけてが最も多く日本付近を通過します。春は、これから災害と隣り合わせの季節がやってきたと実感する季節でもあります。

ご意見をお待ちしています

お気づきの点があればご意見をお寄せください。また、素朴な疑問や質問を募集します。電子メール、Fax、あるいは郵便（はがき、封書）で下の宛先までお送りください。お待ちしております。

問合せ先
〒810-0052　福岡市中央区大濠 1-2-36
福岡管区気象台防災調査課はれるんマガジン編集部
電話：　092-725-3614
Fax：　092-725-3163
e-mail：fukuoka_bousaichousa@met.kishou.go.jp

次回の発行は 2022 年４月の予定です。